

稲敷市 “持続可能な地域づくり” ニュース <vol.1>

令和4年4月1日、稲敷市全域が過疎地域に指定されたことを踏まえ、“まちづくりを抜本的に見直す”を合言葉に、「持続可能な地域づくりプラン」の策定に着手しました。

このプラン策定のため、専門家を含めた市民等の参画による「稲敷市持続可能な地域づくりプラン策定委員会」および市内在住者・在勤者、Uターン希望者などで構成される4地区の部会を設置し、5月2日（月）に4地区の部会による第1回「いなしきを未来につなぐワークショップ」が開催されました。

ワークショップ冒頭のあいさつで箕市長は、「市民の方々の目線や感覚を大事にした『持続可能な地域づくりプラン』を策定し、市民の皆様の笑顔があふれ、元気に地域生活が送れる過疎対策事業を展開していきたい。」と述べられました。

ワークショップには、地域おこし協力隊も加わった25名が参加し、“地域に住み続けるために必要な視点”などについて意見を交わしました。



江戸崎部会では、医院や交通網の集積、祇園祭や寺社等の豊富な歴史資源の状況を共有しながらも、常磐線沿線地域への広域道路網の整備等の必要性が述べられました。また、新利根部会では、都市計画制度による規制等の問題とともに、統廃合により利用していない公共用地の利活用等についての発表がありました。

桜川部会では、近年人気のサイクリングの魅力発信や地域特産品のさらなるブランド化とともに、地域コミュニティの活性化の必要性が述べられました。さらに、東部会では、壮大な穀倉地帯という特性を踏まえた、新たな農業展開についての発表がありました。

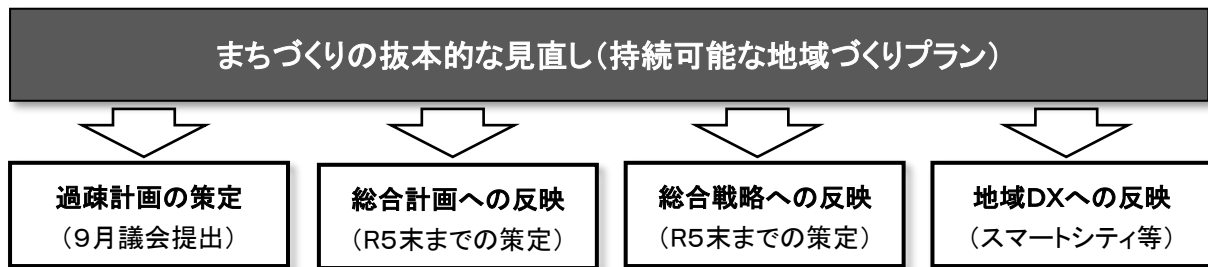
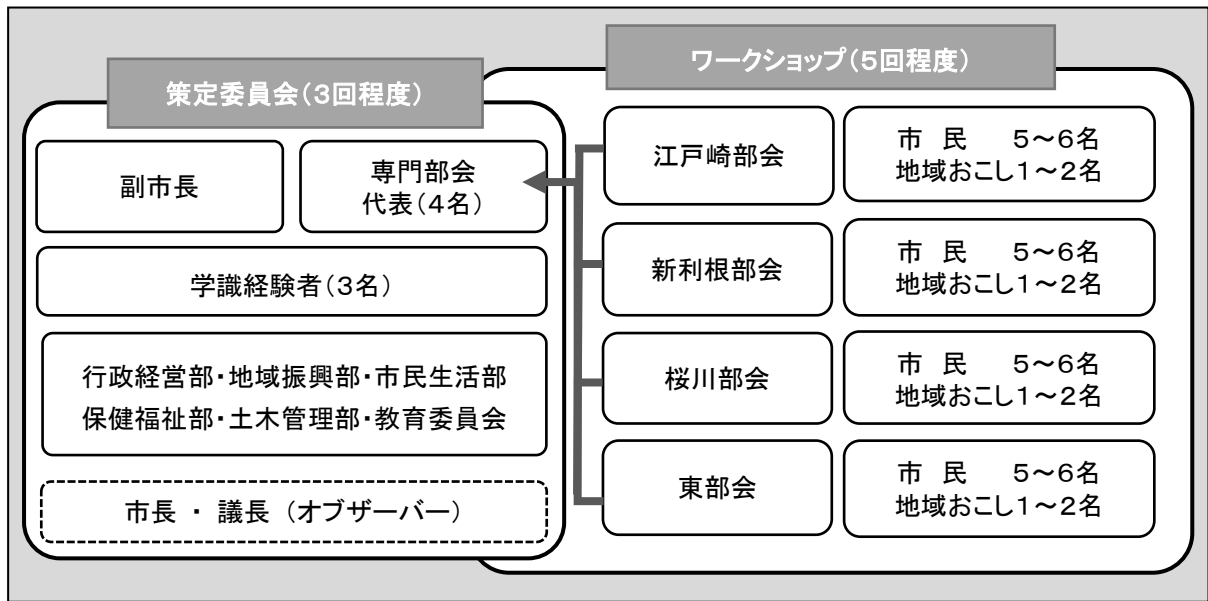
全体では、交通や医療などについて、デジタル化等の技術革新による未来の意見も出されています。



ワークショップにおいては、メッセージアプリ「Slack（スラック）」を活用して、意見交換や話し合いなどができるような工夫を試行的に導入しています。

次回のワークショップは、6月中旬を予定しており、“地域資源”をテーマに、現状の課題や今後の生かし方について意見を交わす予定です。また、5月16日（月）には第1回「稲敷市持続可能な地域づくりプラン策定委員会」が開催されます。

◆「持続可能な地域づくりプラン」の策定等に向けての全体イメージ



◆「いなしきを未来につなぐ地域づくりワークショップ」の今後のスケジュール

回数	時期	検討するテーマ(案)
第1回	5月	<input type="checkbox"/> オリエンテーション(目的、構成、スケジュール) <input type="checkbox"/> 身近な環境のこれからの変化について
第2回	6月中旬	<input type="checkbox"/> 地域資源について(地域資源マップづくり) <input type="checkbox"/> 地域資源の課題と生かし方
第3回	7月中旬	<input type="checkbox"/> 地域が目指す方向性について(地域の未来図作成) ・拠点と必要な機能の位置づけ ・暮らしの場の位置づけ ・その地域で実現を目指す「暮らし方」の検討
第4回	9月下旬	<input type="checkbox"/> 地域づくりに必要な施策について <input type="checkbox"/> 地域づくりに向けた体制づくり(市民・行政)について
第5回	11月上旬	<input type="checkbox"/> 計画案のとりまとめ